

アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.

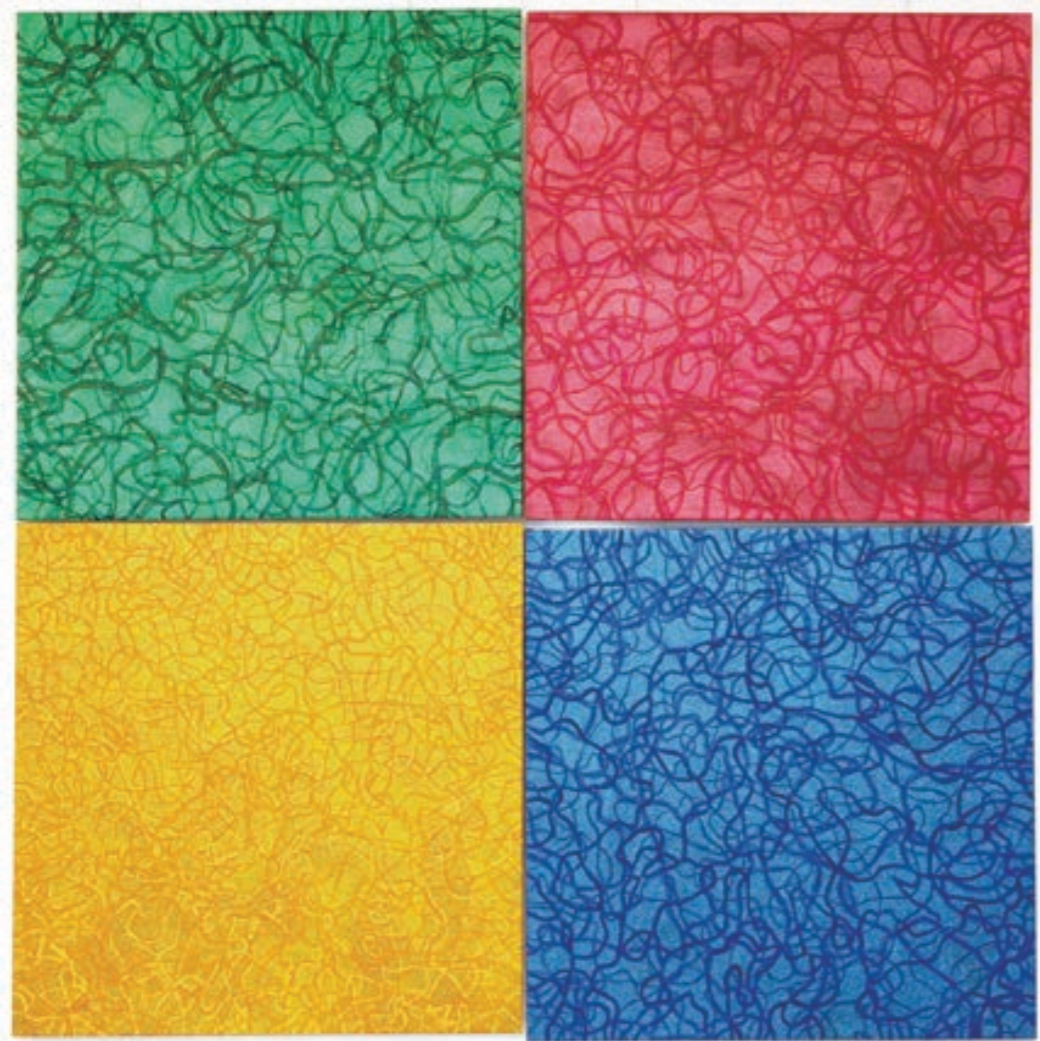


Photo by Kabo

アートをたのしむ手がかり

[昭島ケアパークそよ風]

〒196-0022
東京都昭島市中神町1381番地1
042-500-7835

アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.

「アートあ」は、アートアクションの愛称。はじめてアートにふれてみる。毎日にアートをプラスする。アートをとおしてモノや社会の見え方が変わる。そんな「あ」とする感動や体験をしていただきたい。その思いからスタートしたプロジェクトです。

CONTENTS

002

WINTER 2023

- 03 アートの紹介 — アートの風 —
- 07 BGMの紹介 — 音のそよぎ —
- 11 香りの紹介 — 香り立つ・・・ —
- 13 フラワーの紹介 — 季節を愛でる —
- 15 寄稿エッセイ
— 音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)
[クラシック・ソムリエ 田中 泰]
- 17 イベントの紹介
— アートの対話型鑑賞会

発行/株式会社
編集長/サトマキ()
編集・構成/栗原 勲(RED)、下村 尚明()
アートディレクション・デザイン/蔵持 一石(RED)
校正/佐藤 元、加藤 妹、高橋 博示(昭島ケアパークそよ風)

アートアクション・タイムズ 編集手記

こんにちは。 の佐藤麻紀子です。

さて、夏からはじまった アートアクション、みなさまの施設・昭島ケアパークそよ風では、現代アートの展示、フラワーデザイナーさんによるお花、アロマセラピストさんによる香り、プロの選曲家さんによる多彩な音楽を展開しています。今回はその広報誌二号目です。

昭島ケアパークそよ風では、2月からアートアクションのイベント「対話型鑑賞」を開始します。名画と言われる絵画をみなさんと鑑賞して、観るだけでなく、対話することによって鑑賞を深めます。みなさんが思ったこと、思い出したこと、感じたこと、なんでも話してみましよう。ぜひ、対話型鑑賞を楽しんでくださいね。その時にみなさんに直接お会いできることを楽しみにしています。ぜひサトマキ、サトマキちゃん、サトマキさん、と呼んでくださいね。



FINE ART

アートの紹介

アートの風

みなさんの施設に飾ってある作品は、現代アートといって、現代（今、同時代を生きている）のアーティストさんが描いた作品です。これらはみな、個人のコレクターさん（所有者さん）からお借りしてきた作品群です。その所有者さんの、このコレクションに込めた思いを伺って来ました。今回は中尾浩治さんです。



art collector

中尾 浩治 さん 合同会社アート・マネジメント・しまなみ CEO

医療機器メーカーに長年勤務、その関係で約15年、欧米で生活、現代アートを知る機会を得る。コレクションは現地で出会ったアーティストおよび日本の作家で構成される。作品そのものが重要であることは勿論であるが、作家本人と会い、話し、背景を知ること大事。そのような出会いから刺激を受ける。2016年から広島県のアート企画に携わりいくつかの市で企画

展を開催。現在の仕事は、医療機器イノベーションの大学教育とベンチャー支援を他がける。生まれ故郷の広島県尾道市にスペースを持ち、コレクションを一般公開。また現代アート、音楽の分野のアーティストに応援の一環として場所を提供する。スペースはCafe&Barとして運営しており、時々だがパーティーも務める。

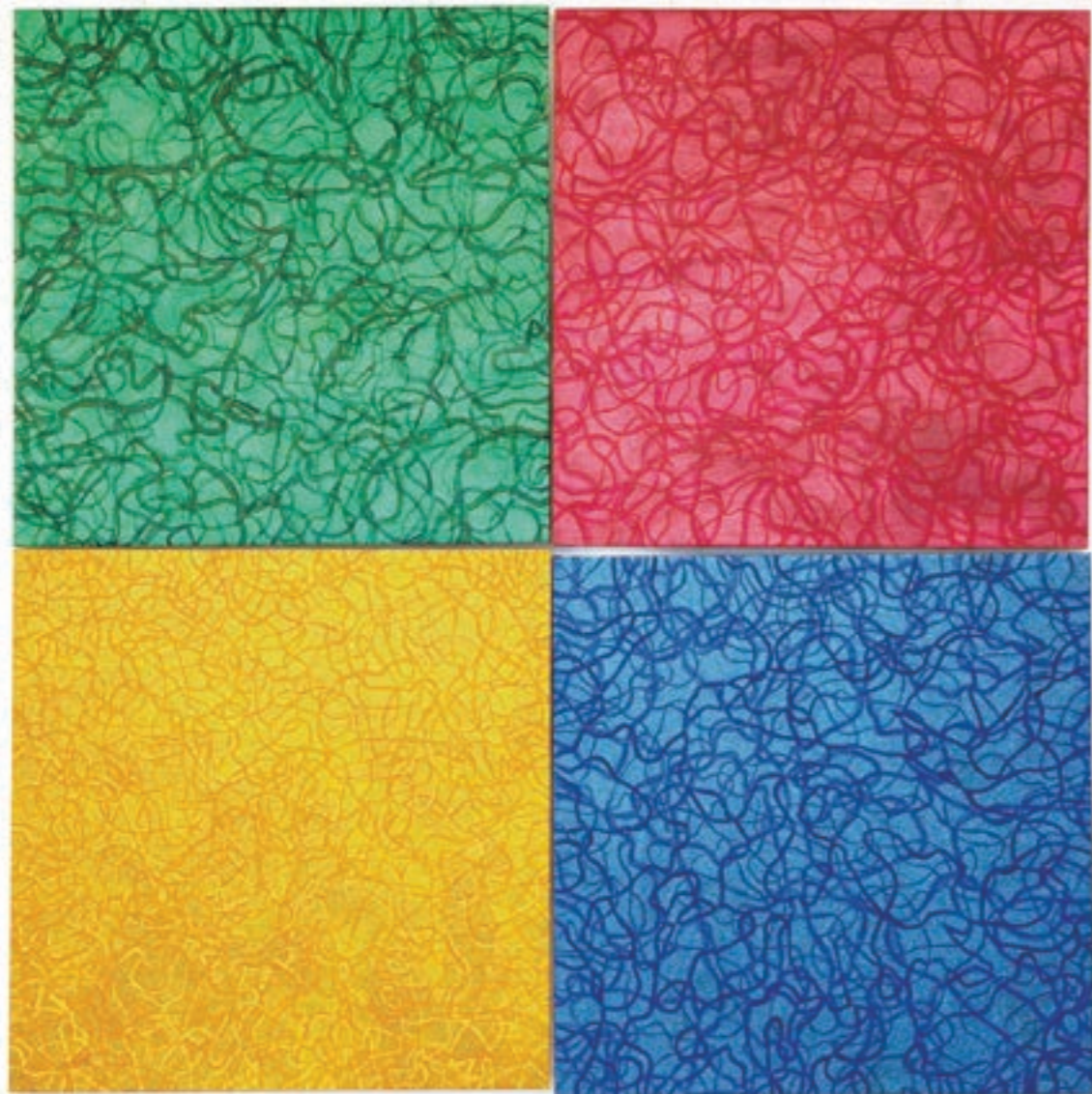


Photo by Kabo

FINE ART 001

鬼頭 健吾
Kengo Kito

cosmic dust colors

655×655mm 油彩 グリッター キャンバス 2010年

作家プロフィール：1977年愛知県生まれ、2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。2010年文化庁新進芸術家海外研修員としてベルリンに滞在。京都芸術大学大学院教授。フラフープやシャンパーボトルなど、工業製品の現代的なカラフルさと、生命体や宇宙を感じさせるような広がりを感じさせた作品で国内外から高い評価を受ける。



作家プロフィール：1983年富山県生まれ。2008年武蔵野美術大学造形学部油画科卒業、2010年武蔵野美術大学大学院卒業。主なグループ展にアートアワードトーキョー丸の内2010(東京)。主な個展に「floating clouds」(Hagiwara projects, 2022,東京)。

FINE ART 002

尾竹 隆一郎
Ryuichiro Otake

1245

395×297mm インクジェットプリント
アクリルにマウント 額装 ed.1/3 2016年



art director サトマキ

タイトルをみる。

そこから、あなたのアートの旅がはじまります。

みなさん、こんにちは。サトマキです。前の号で、現代アートについて少し話をしました。今回は、現代アート作品を楽しむに観る方法をお知らせします。

「キャプション」、ありますよね。作品の下に何が書いてある、小さな紙です。そこには、アーティスト名、作品名、制作年、サイズ、メディア(その絵画が何から出来ているか)が書いてあります。例えば、山口智子さん「息をしていることに気づくこと」(談話室左側の壁)。この題名から何を感じますか?この絵画には女性が4人居ますね。これは作家さん自身と作家さんのお母さんらしいです。これは題名からは察せられませんが、そうなのですって。「息をしていることに気づくこと」息をしているのは生きているから当たり前?当たり前前のことに気づくこと?お母さんから生まれたから生きています?それに気づいたってこと??ね、いろんな連想が膨ら

む題名ですよ。

こんな風に、タイトル(題名)ひとつとっても、その作品をいろいろ考えることが出来るのです。もちろんタイトルで分からないタイトルもあります。Untitled(無題)とかUnnamed(名無し)とか数字の羅列とか。どうして無題なんだろう、何が書いてあるんだろう、そこから絵のことを考えて欲しいから、作家はそう付けているのかも知れませんよね。

みなさんと私が飾った現代アートについて話をすると、分かりにくい、理解が難しい、という話を聞きます。アート、とつつきにくいですよ。良く分からないですよ。それで良いんですよ。アートを分かる・理解する必要なんて無いのです。でも、みなさん、何が描かれているのか興味はおありのようですよ。その時、手助けになるひとつが、「タイトル」です。世界で最も有名な絵画のひとつレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ

リザ」、原題は「La Gioconda」ですが、どうして日本ではモナリザと呼ばれているか。それは、ダ・ヴィンチがフランチェスコ・デル・ジョコンドから妻モナ・リザの肖像画制作の依頼を受けたからだそうです。Monaは私の貴婦人との意味だそうです。

こんな感じで、私が挙げた実例もそうですが、タイトルには、その絵の由来や何が描いてあるかを紐解く鍵が詰まっているのです。解説は何も無いですが、どうぞタイトルから、アートを感ずる考えるきっかけにしてみてください。まずはいったん、自分が興味があるか、どう感じるかを考えてみる、それだけに集中してください。そしてどうしてそう思う?と考えてみてください。何か良いな〜と思ったら、タイトルを見てみてください。そこから、あなたのアートの旅が始まります。

MUSIC

BGMの紹介

音のそよぎ

この昭島ケアパークそよ風には、音楽セクターさんたちが厳選した楽曲が、BGM（バック・グラウンド・ミュージック）として流れています。昭島オリジナルセレクトの1週間をどうぞお楽しみください。



producer
清宮 陵一 さん

NPO法人トッピングイースト理事長/合同会社ヴァイナルソユーズ代表

1974年東京都生まれ。音楽プロダクション・ヴァイナルソユーズではさまざまな音楽家らと協業する傍ら、特別なヴェニューや公共空間でのパフォーマンスを多数プロデュース。トッピングイーストでは地元・東京都に根差したプログラムを展開。2021年『隅田川怒涛』を実施。

今回お聴きいただく音楽は、一週間でひとつのサイクルとして、1日の目覚めから眠りまでの時間を意識できるつくりにしました。また、情景が浮かんで、まるで日本中を世界中を旅する感覚を持てたり、ときに人生を懐かしみ昔話に花が咲く、誰もが知る曲もかかります。プロの選曲家による多彩な音楽をお楽しみください。

医療的視点での
アドバイザー



医師、医学博士

稲葉 俊郎 さん

軽井沢病院 院長・総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任(山形ピエンナーレ2020 芸術監督 就任)

単著『いのちを呼びますもの』、『いのちへのいのちへ』(アノニマ・スタジオ)など。

MUSIC SELECTOR

03



ライター

大石 始 さん

地域と風土をテーマとする文筆家・選曲家。旅と祭りの編集プロダクション「B.O.N」主宰。著書に『盆踊りの戦後史』(筑摩書房)、『奥東京人に会いに行く』(晶文社)、『ニッポンのまつリズム』(アルテスパブリッシング)、『ニッポン大音頭時代』(河出書房新社)など。オンラインラジオ「WAH! Radio」で各地の民族音楽を紹介する番組「folkloric」を担当。現在の連載に月刊「東京人」の「まちの記憶、音の風景」など。

MUSIC SELECTOR

02



音楽家

蓮沼 執太 さん

1983年、東京都生まれ。「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、インスタレーション、パフォーマンス、彫刻、映像、プロジェクトなどを制作する。アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)のグランティ、文化庁・東アジア文化交流史に任命されるなど、国外での活動も多い。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

MUSIC SELECTOR

01



クラシック・ソムリエ

田中 泰 さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スプートニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

ライター

大石 始 さん

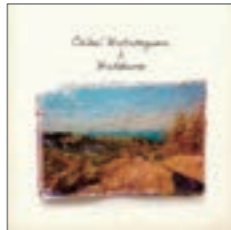


SELECT 主な楽曲

入所者の方々が日々暮らす空間でどんな音が鳴っていたら心地いいだろう？ そんなことを考えながら作品を選ばせていただきました。朝は爽やかな空気に溶け込む静物画のような作品を。昼は他の入所者の方との会話のきっかけになるかもしれない童謡やわらべうた、民謡を。夜は時に健やかな眠りへと誘い、時に懐かしいあの時代へタイムスリップする作品を。皆さんの暮らしにちょっとした色合いを加えることができれば、これほど嬉しいことはありません。



■曲名:1 ■作曲家:AOKI, hayato
■主な演奏家:AOKI, hayato ■録音年:2020年 ■アルバム:MITATE2



■曲名:It is, it isn't ■作曲家:Chihei Hatakeyama & Hakobune
■主な演奏家:Chihei Hatakeyama & Hakobune ■録音年:2014年



■曲名:波 ■作曲家:冥丁 ■録音年:2018年 ■アルバム:夜分



■曲名:Circle Of Life ■作曲家:原摩利彦
■主な演奏家:原摩利彦 ■録音年:2017年

音楽家

蓮沼 執太 さん



SELECT 主な楽曲

音楽は目に見えないものではありません。一日の時間の変化に寄り添うように、な万世不刊な楽曲をセレクトさせてが空間におとずれて欲しいと思って

すが、空間を彩る力があります。一空間の彩りを淡く変化していくよういただきました。常に新鮮な空気感があります。



提供:日本コロムビア

■曲名:ジムノベディ 第1番 ■作曲家:エリックサティ ■録音年:2017年 ■アルバム:エリックサティ、新・ピアノ作品集



提供:ユニバーサル ミュージック

■曲名:Thembi ■作曲家:Pharaoh Sanders ■録音年:1971年 ■アルバム:Thembi



提供:ユニバーサル ミュージック

■曲名:Thursday Afternoon ■作曲家:Brian Eno ■録音年:1985年 ■アルバム:Thursday Afternoon



提供:日本コロムビア

■曲名:小さな空 (Instrumental) ■作曲家:武満徹 ■主な演奏家:Choro Club ■録音年:2011年

クラシック・ソムリエ

田中 泰 さん



SELECT 主な楽曲

まずは、クラシック史上最大のヒット曲の1つ「四季」を楽しんだ後は、ヘンデルの名作「メサイア」へ、名高い「ハレルヤ・コーラス」が心にしみみます。同じヘンデルの「ハープシコード組曲」は、同年生まれのJ.S.バッハ作品に引けを取らない素晴らしさ。キース・ジャレットの美しいピアノが引き立ちます。そして最後は20世紀最大のクラシックイベントと謳われた「3大テノール」の華やかな歌声で締めくくり。



提供:ワーナーミュージック・ジャパン

■曲名:ヴィヴァルディ:協奏曲集『四季』/Vivaldi:Four Seasons ■作曲家:ヴィヴァルディ/Vivaldi ■主な演奏家:アンネ=ゾフィー・ムター Anne-Sophie Mutter(ヴァイオリン & 指揮)、トロンハイム・ソロイスト Trondheim Soloists ■録音年:1999年



提供:ユニバーサル ミュージック

■曲名:ヘンデル:オラトリオ「メサイア」(全曲)/Messiah, K. 572 ■作曲家:ヘンデル/George Frideric Handel ■主な演奏家:ゲオルグ・ショルティ Georg Solti(指揮)、シカゴ交響楽団 ■録音年:1997年



提供:ユニバーサル ミュージック

■曲名:ハープシコード組曲集/Keyboard Suite ■作曲家:ヘンデル/George Frideric Handel ■主な演奏家:キース・ジャレット Keith Jarrett(ピアノ) ■録音年:1993年



提供:ユニバーサル ミュージック

■曲名:ベスト・オブ・3大テノール /The BEST of 3TENORS ■作曲家:ドヴォルザーク/Dvořák ■主な演奏家:ホセ・カレーラス José Carreras、プラシド・ドミンゴ Plácido Domingo、ルチアーノ・パヴァロッティ Luciano Pavarotti ■録音年:1990年、1994年、1998年

朝の香り「朝の森」



ローズマリー



レモン



フランキンセンス

朝の森のエネルギーを深呼吸

朝の森には、朝露に輝く植物の息吹が満ちています。足もとから、ふくよかな土の香りが立ちのぼり、思わず深呼吸したくなります。グリーンで爽やかなローズマリーやレモンには、心をリフレッシュさせ、頭脳を活性化させて思考をクリアにする作用があるとされます。朝の清々しい森の香りで、最高の朝をスタートしましょう。

夜の香り「夜長の寛ぎ」



ラベンダー



オレンジ



パチュリ

上質なプライベートタイムを

文学や芸術などの世界に心ゆくまで没入、上質なプライベートタイムをイメージした香りです。内面が豊かに満たされる贅沢なひととき。ラベンダーやシトラスの香りがリラックスタイムに寄り添い、大地のように温かなパチュリーの香りが明日へのエネルギーとなって上質な睡眠をもたらします。

AROMATHERAPY

香りの紹介

香り立つ…

玄関ホールと4階談話室で、何やら香っていませんか？
良い香りだと思われましたか？
そうですね、実は、今回、新たに香りを導入しました。
実はこの香り、香りのプロが施設に合わせて調香（香りを調整すること）してくれた、特別な香りなのです。これから、季節に合わせて、毎回少しずつ香りを変えて、みなさんにお届けします。



IFAアロマセラピスト
アロマスペースデザイナー

大橋 マキさん

頬に触れる空気に、ふと冬の匂いを感じた経験はありませんか？そんなとき、目に飛び込んでくる風景や色、温度、手触りなども香りのヒントにしています。「朝の森」は、ローズマリーやミント、ライムなどの爽快感に、スパイシーなハーブと樹脂特有の重さが加わることで、落ち葉が土にかえっていく豊穡の季節を感じさせます。香りを調合するときは、精油の効能や身体性も意識します。「夜長の寛ぎ」は、安眠を促すラベンダーとシトラスの優しい甘さのなかに、大地を感じさせるパチュリという精油を加えることで包容力や温かみを添えています。

大橋 マキ Maki Ohashi / IFAアロマセラピスト / アロマスペースデザイナー 放送局を退職後、英国に留学。植物療法を学ぶ。アロマセラピストとして6年間の病院活動を経て、アロマ空間演出の他、精油の地産地消や企業ブランディングにも従事。自身が代表を務める一般社団法人はっぶでは、園芸療法を用いた認知症ケアや農福連携にも取り組む。アロマブランド「aromamora」では季節のブレンドを製作。執筆、ラジオ出演、講演多数。

FLOWER

季節を愛でる

フラワーの紹介

このページでは、施設に飾られているお花を紹介しています。

毎月、その時節に合わせて旬なお花を選んでデザインしたフラワーアレンジメントを飾っております。

身近にお花がある日常を通じて、季節を感じていただきたいと思います。



フラワーデザイナー&スタイリスト

松本 由利 さん

日本には四季折々の花々、木々があります。季節を愛で、感じ、味わう…食や文化と同じように花の装飾でも季節感を表現します。そのため、フラワーアレンジメントには、なるべく旬の花を使うようにしています。写真は、秋から冬にかけて飾ったアレンジメントです。ずっと伸びているグリーンはニューサイラン。シンプルでモダンなデザインでありながら、明るい色合いのトルコキキョウを使うことで優しい雰囲気仕上げました。花のある生活で、どうぞ季節をお楽しみください。

松本 由利 Yuri Matsumoto / フラワーデザイナー&スタイリスト

英国人デザイナー、ジェーンパッカーの元でデザイナー、インストラクターを務めたのち独立。「花と食」「花とインテリア」といったさまざまな分野とのコラボレーションレッスンを企画運営。スタイリッシュな花を得意とする。フラワーショップkusakanmuriが主催する「草冠の学校」でも講師をつとめる。



イタリア史上最も 重要な人物と評された ジュゼッペ・ヴェルディ

みなさんこんにちは。施設内に流れる音楽はいかがでしょうか？ 僕が担当するクラシック音楽も気に入っていただけたらとても嬉しいです。さて、連載2回目となる今回は、イタリアのオペラ作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)についてです。

19世紀を代表する作曲家ヴェルディは、主にオペラを軸に作曲活動を行い、「オペラ王」の異名を持つイタリア・ロマン派音楽の中心的存在です。代表作としては、『ナブッコ』、『リゴ

レット』、『椿姫』、『アイーダ』などの

オペラ作品のほか、イタリアの文豪アレッサンドロ・マンゾーニ(1785-1873)の死を悼んで作曲された『レクイエム』などが有名です。彼が遺した作品の数々は、現在も世界中のオペラハウス(歌劇場)で演じられ、『アイーダ』の大行進曲がスポーツ・イベントの応援に使われるほか、『ナブッコ』の「行けわが思いよ、金色の翼に乗って」はイタリア第二の国歌として愛されるなど、ジャンルの枠を超えた広がりによって、大衆文化に深く根付いています。ヴェルディが活躍した当時、イタリアは統一運動の真只中にあり、祖国イタリアへの愛を高らかに歌い上げたヴェルディ作品は、統一運動のシンボル

術や文化、スポーツ等、共通の価値観がコミュニティ形成に重要な要素となることが理解され始めています。ヴェルディが思い描いた「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」こそは、まさにそのモデルケースと言える存在感を放ち続けています。そして、ヴェルディ自身もこの施設の敷地内に、愛する妻とともに静かに眠っています。

*この「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」をモデルとして制作されたのが、ダスティン・ホフマン監督による2012年公開のイギリス映画『カルテット! 人生のオペラハウス』です。興味のある方はぜひご覧になってみてください。

とみなされるようになったのです。

その結果ヴェルディは、イタリア史上最も重要な人物と評され、ユーロに変わる前のイタリア紙幣(1000リラ)に肖像が採用されるまでになったのでした。

私財を投じて建設した 音楽家のための高齢者住宅 カーサ・ヴェルディ

そのヴェルディが遺したもう一つの遺産にして、「自らの最高傑作」と語ったのが、ミラノにある「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」です。これは、恵まれない音楽仲間の晩年を憂いたヴェルディが、私財を

投じて建設した音楽家のための高齢者住宅です。施設の運営資金には、ヴェルディの死後50年に及ぶ作品の著作権が当てられています。著作権が切れた1962年以降は、多くの篤志家の援助によって施設は存続。現在も多くの音楽家たちが暮らしています。入居資格は、ヨーロッパ市民で65歳以上のアーティスト、作曲家、指揮者、歌手、オーケストラ団員、音楽教師、合唱団員、バレエダンサーおよびその配偶者、未亡人が対象で、入居費用は年金の額などによって決まるのだとか。今では、入居者たちが施設内で音楽を楽しむほか、音楽家を目指す若い学生たちとのコミュニケーションの場にもなっているというのですから素敵です。これはまさに、今の時代を予見したかのような、ヴェルディの「先見の明」と言えるでしょう。日本においても、芸



クラシック・ソムリエ
田中泰さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スポーツニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

ART
ACTION
EVENTアートの
対話型鑑賞会

グループで一つの作品を見ながら、感じたこと考えたことを話し合うことで、作品の見方を深めていきます。知識は必要ないため、美術鑑賞が苦手だと思っている人も楽しく参加できます。みて、考えて、話して、聴くという行為を繰り返すことで、長期的には思考力の向上が報告されています。絵画鑑賞が初めての方も、お気軽にご参加ください。

#1 物語を楽しむ

23年2/21(火) 13:30~15:00
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

1回目のテーマは「物語を楽しむ」です。鑑賞の初心者はアート作品の中から物語を見つけ、物語を語る傾向があることがわかっています。初めて体験する対話型鑑賞では誰もが有しているこの力を使って、作品に描かれている物語を想像し、語り合います。1作目のジョルジュ・ラ・トゥールの《女占い師》と2作目の月岡芳年《藤原保昌月下弄笛図》のどちらも、登場人物の間にスリリングな駆け引きがあります。今まさに何が起っているのか、次の瞬間に何が起こるのかに心が奪われ、対話に引き込まれることになるでしょう。

#2 母と子

2/28(火) 13:30~15:00
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

2回目は「母と子」の姿をテーマにします。1作目はルノアールの柔らかな色と光に満ちた幸福感溢れる《母子像》。2作目は静けさや純粹さ、憂鬱といったさまざまなイメージが喚起されるピカソ「青の時代」に描かれた《海辺の母子像》。3作目は1930年代、世界恐慌のために出稼ぎにきた母と子の姿を撮影したと言われているドロシー・ラングの《移民の母》。子を慈しみ、守ろうとする母親の姿を語っていきます。

#3 印象派

3/7(火) 13:30~15:00
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

3回目は世界中の人が愛する「印象派」をテーマにします。1作目は印象派の画家たちに多くのインスピレーションを与えた、マネの傑作《フォーレベルジュールのバー》。パリの賑やかな酒場の煌めきに満ちた空間と微妙な心の機微を味わいます。2作目は移りゆく自然の光と影を画布にとどめた、印象主義の体現者・モネの《日傘を指す女》。3作目は当時の最新の色彩理論を研究し、新しい絵画技法を発明した画家スーラの《クールボワの橋》。写真ができた時代に、画家たちが発明した画期的な絵画をみていきます。

#4 音

3/14(火) 13:30~15:00
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

4回目は、聴覚「音」をテーマにします。1作目は葛飾北斎の《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》。2作目は一転して、ルソーの《夢》。鬱蒼としたジャングルの中に夢のように現れた横たわる女性、笛を吹く人物と動物たち。3作目のビュフェの《モーツァルト》は、鍵盤や弦楽器、楽譜といったモチーフだけでなく、色や形や筆致から音が聞こえてきそうです。

#5 自然と人

3/21(火祝) 13:30~15:00
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

5回目のテーマは「自然と人」。1作目の歌川広重の《大橋あたけの夕立》では、急に降り出した夕立に、橋を走って駆け抜ける人々の様子や暮らしぶりから日本の自然観を楽しめます。産業革命後の西洋では改めて自然を見直し、自然にむけた憧憬も生まれました。2作目はゴーギャンの《No te aha oe riri (Why Are You Angry?)》では、タヒチの生命力溢れる自然と人々の暮らしに思いを馳せます。3作目はゴッホの《星月夜》では、満天の星空とその下に広がる村の風景を語ります。

#6 植物

3/28(火) 13:30~15:00
ばしょ: 1F ダイニングルーム こもれび

最終回の6回目は「植物」。すべて日本人作家の作品です。1作目の歌川広重の《名所江戸百景: 亀戸梅屋敷》では、力強く天に向かって枝を張っている梅の木とその景色、2作目の藤田嗣治の《バラ》では、花瓶に生けられたバラの花の刺々しさや、赤黒い色味から喚起されるイメージを、最後を締めくくる3作目の柴宮忠徳の《樹と石のある風景》では、こんもりと緑を茂らせた大木が湛える生命力を語ります。

せんせいのご紹介

三ツ木 紀英 さん
(みつきのりえ)

NPO法人 芸術資源開発機構 (ARDA) 代表理事

